

- 6) Ice nuclei in the atmosphere.
E.K. Bigg
- 7) Mechanism of separation of charge in ice.
B.J. Mason
- 8) Solid state of ice crystals with special reference to problems of cloud physics.
A. Higashi
- 9) Mechanism of ice nucleation.
N.H. Fletcher
- 10) Experimental investigation of ice nucleation.
K. Isono

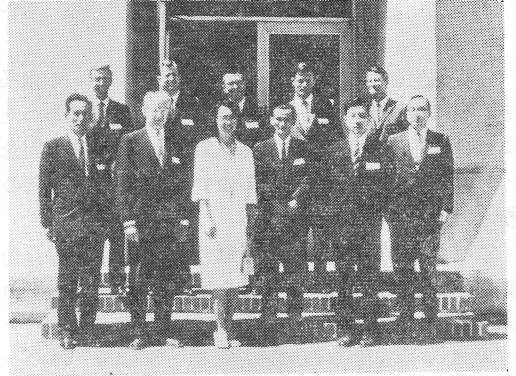
始まってしまえば普通の学会と異なるところはない。講師は各々得意とするところを発表しているので内容も題目から想像される通りであった。ただこの中で Mason の分は Latham が代読したし、最後の Fletcher (Bigg が代読予定) 及び磯野教授の分は時間切れのためキャンセルされた。

もともと時間が足りないところを壁頭の私が10分ばかり超過して全く申し訳ない次第で、こんなことが許されたのは司会が磯野教授なればこそと感謝する次第である。とにかく日本人が多かった故か、こんな気楽に感じた講演は始めてで、そういえばシンポジウムといっても研究発表会と大差なかったような気がする。途中で会場を見渡すとさしもの講堂が満員の盛況で、先生の偉業をたたえるにふさわしい盛会であった。

シンポジウムの終了後、バイヤース教授の発案で口絵のような関係者一同の記念撮影をおこなった。帰国後、

東大の茅先生にシンポジウムの話をしたら、国際学会には減多にないことの由である。IUGG としては最高の敬意を表したものであろう。

ひるがえって吾々の講演の内容が先生の偉業を継ぐにふさわしいものであったか否かとなると誠に心許ない次第である。しかし日本から出席したのはほんの一部にすぎない。研究者の量と今後の可能性を考慮すれば、雲物理学の現状は先生にみてもらっても「まあ、そんなところだろう」くらいの点数は頂けるのではなからうか。



氷晶・氷晶核に関する中谷博士
記念シンポジウム関係者一同
(昭和38年8月27日, IUGG)

前列左から磯野教授、バイヤース教授 (IUGG 会長) 咲子オルスン夫人、孫野教授、東博士、熊井博士、後列左からホスラー教授、マツコロン博士、バンダー博士、ラセム博士、ビッグ博士 (熊井博士撮影)

理 事 会 便 り

第 12 期 第 19 回 常任理事会議事録

日 時 昭和38年12月16日 (月) 17.00~21.00

場 所 いづみ

出席者 島山, 吉武, 須田, 有住, 岸保, 増田, 松本,
今井, 正野, 淵各理事 (順序不同)
中村 (鈴木委員代理)

決 議

- 国際雲物理会議の組織委員会 (第12期) を次のとおり構成する。
島山 (委員長), 正野, 吉武, 須田, 岸保, 今井, 孫野, 磯野, 高橋, 鯉沼, 淵各委員 (順序不同)

- 明年度大会および総会の期日を5月20日 (水),

21日 (木) 22日 (金), 会場を気象庁とし, 大会委員長に同長官島山久尚氏をお願いする。

- 第13期選挙管理委員会委員を次のとおりお願いする。

木村 耕三 (委員長)	木山 斎
伊藤 昭三	菊地 幸雄
奥山 熊一	松野 太郎

なお、会員名簿は4月1日付とする。

- 日中学術交流関係の論文を「天気」にのせる。
- 理事会 (全国) と評議員会の合同会議を明年1月14日に開催する。